



◆億と兆

千万より大きな数のよみ方としくみをまとめましょう。

一兆 ちよう				一億 おく				一万				一
の位 ぐらい	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位	の位
1	2	5	2	3	5	4	0	6	7	8	9	0

① 上の にあてはまる ^{ぐらい}位の名前を書きましょう。

② 一万の ^{ぐらい}位の 6 は、1 万が ^{あらわ}こあることを表しています。

また、一億の ^{おく}位の 3 は、1 億が ^{あらわ}こあることを表しています。

③ 上の数を ^{かんじ}漢字で書きましょう。

一 二千五百二十三 五千四百六

④ 千億の ^{おく}位の 2 は、

十億の ^{おく}位の 2 の ^{ばい}倍の大きさを ^{あらわ}表しています。

^{ぐらい}位 が 1 けた上がると、
数は 10 倍になるよ。
^{ぐらい}位 が 2 けた上がると、
数は 100 倍になるよ。



百億の ^{おく}位の 5 は、

千万の ^{ぐらい}位の 5 の ^{ばい}倍の大きさを ^{あらわ}表しています。

⑤ 一兆の 10 倍の数は といい、 と書きます。

⑥ 百兆は一兆の ^{ばい}倍の数で、十兆の ^{ばい}倍の数です。

⑦ 百兆の 10 倍の数は といい、 と書きます。

一、十、百、千の ^{かえ}くり返しだね。





つぎ
次の数を、下に数字で書きましょう。

- 九千三百八十七

[illegible]



◆大きな数のたし算、ひき算

65 億^{おく} + 32 億^{おく} の計算のしかたを考えましょう。

1 億^{おく} をもとにして考えると…。

65 億^{おく} は 1 億^{おく} が こ

32 億^{おく} は 1 億^{おく} が こ

あわせて 1 億^{おく} が こ

65 億^{おく} + 32 億^{おく} =



382 兆^{ちよう} - 76 兆^{ちよう} の計算のしかたを考えましょう。

1 兆^{ちよう} をもとにして考えると…。

382 兆^{ちよう} は 1 兆^{ちよう} が こ

76 兆^{ちよう} は 1 兆^{ちよう} が こ

のこりは 1 兆^{ちよう} が こ

382 兆^{ちよう} - 76 兆^{ちよう} =



◆整数のしくみ

850 億^{おく} の 10 倍^{ばい}、100 倍^{ばい}、 $\frac{1}{10}$ の数を書きましょう。

10 倍すると、位^{ばい}が 1 つ上がるから、
0 が 1 つふえるね。
 $\frac{1}{10}$ にすると、位^{くらい}が 1 つ下がるから、
0 が 1 つへるね。



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

一兆 ^{ちよう}	千億 ^{おく}	百億	十億	一億	千万	百万	十万	一万	千	百	十	一
		8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

$\frac{1}{10}$

10 倍

100 倍



◆大きな数のかけ算

359 × 704 の計算のしかたを考えましょう。

			3	5	9
		×	7	0	4

359
× 704
1436
000
⋮

ひっさん
の筆算を
かんたんに
すると…。

くらい
位ごとに分けて
かければいいね。



23 億 × 30 の計算のしかたを考えましょう。

1 億をもとにして考えると…。

23 億は 1 億が こ
23 億 × 30 は
1 億が × こ

23 億 × 30 =

筆算で考えると…。

2300000000
× 30

◆練習

① 457 × 217

② 530 × 608

③ 19 兆 × 80

	×			

		×		

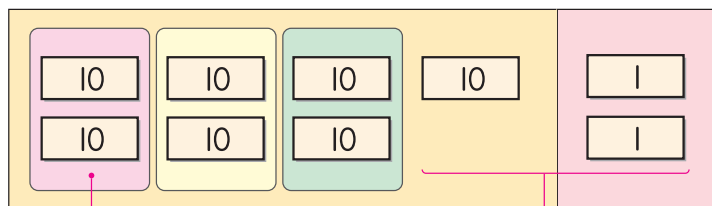
1 兆をもとにして
考えると…。



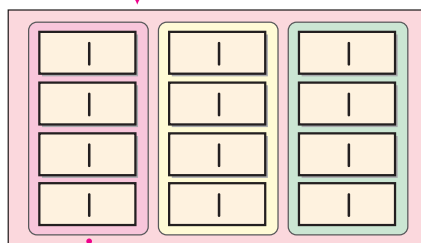
◆ $72 \div 3$ の筆算

$72 \div 3$ の計算のしかたを考えましょう。

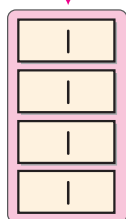
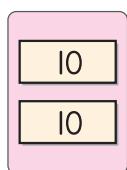
① 図を見て、計算のしかたを考えましょう。



はじめに 10 のまとまりを
3 等分^{とうぶん}すると、1 人分は
10 のまとまりが 2 こ。



のこ
残った 12 を 3 等分^{とうぶん}すると…。



1 人分は、10 のまとまりが
2 こと、1 が 4 こ。



$$72 \div 3 = \boxed{}$$

② $72 \div 3$ の筆算^{ひっさん}は、次のようにします。

$$\begin{array}{r} \textcircled{1} \\ 3 \overline{) 72} \\ \textcircled{2} \end{array}$$

① 十の位^{くらい}の 7 を
3 でわり、2 を
たてる。

② 3 に 2 をかけて 6。

$$\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{) 72} \\ 6 \end{array}$$

③ 7 から 6 を
ひいて 1。

$$\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{) 72} \\ 6 \end{array}$$

④ 一の位^{くらい}の 2 を
おろす。

$$\begin{array}{r} 2 \\ 3 \overline{) 72} \\ 6 \end{array}$$

⑤ 12 を 3 でわり、
一の位^{くらい}に 4 をたてる。

$$\begin{array}{r} 2 \textcircled{5} \\ 3 \overline{) 72} \\ 6 \\ 12 \end{array}$$

⑥ 3 に 4 をかけて 12。



◆あまりのあるわり算の筆算

93 ÷ 4 の筆算のしかたを考えましょう。

① 十の位の計算をしましょう。

- ・ ÷ で十の位に 2 をたてる。
- ・ 4 に をかけて 8。
- ・ 9 から 8 をひいて 1。

② 一の位の計算をしましょう。

- ・ 一の位の をおろす。
- ・ ÷ で一の位に 3 をたてる。
- ・ 4 に をかけて 12。
- ・ 13 から をひいて 。

	2	
4	)	9 3

$$93 \div 4 = \boxed{} \text{ あまり } \boxed{}$$



93 ÷ 4 の計算のたしかめをしましょう。

93 ÷ 4 = 23 あまり 1 のたしかめ

$$\boxed{} \times \boxed{} + \boxed{} = \boxed{}$$

わる数 × 商 + あまり = わられる数

わり算の答えを 商

かけ算の答えを 、

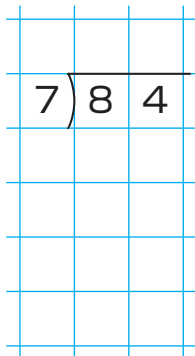
たし算の答えを 、

ひき算の答えを 、

といいます。

◆練習

① $84 \div 7$



84 ÷ 7 の筆算のしかた

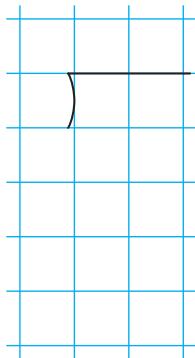
十の位の計算

- ・ 8 ÷ 7 で十の位に 1 をたてる。
- ・ 7 に 1 をかけて 7。
- ・ 8 から 7 をひいて 1。

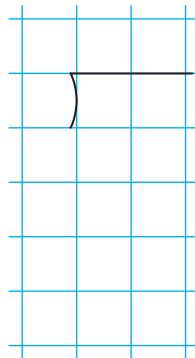
一の位の計算

- ・ 一の位の 4 をおろす。
- ・ 14 ÷ 7 で一の位に 2 をたてる。
- ・ 7 に 2 をかけて 14。
- ・ 14 から 14 をひいて 0。

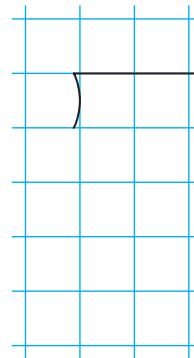
② $74 \div 2$



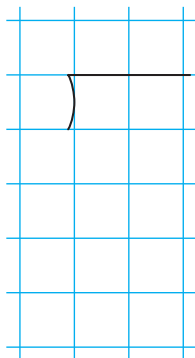
③ $90 \div 6$



④ $83 \div 3$



⑤ $75 \div 4$

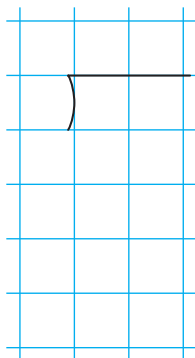


計算のたしかめのしかた

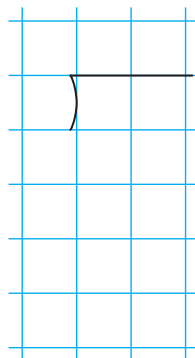
$$4 \times \boxed{} + \boxed{} = 75$$

わる数 × 商 + あまり = わられる数

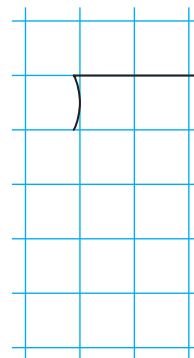
⑥ $48 \div 2$



⑦ $53 \div 5$



⑧ $65 \div 2$





◆ 3けた÷1けた=3けたの筆算

937 ÷ 4 の^{ひっさん}筆算のしかたを考えましょう。

- ① 百の位の計算をしましょう。
- ・ $\div$ で百の位に 2 をたてる。
 - ・ 4 に をかけて 8。
 - ・ 9 から 8 をひいて 1。
- ② 十の位の計算をしましょう。
- ・ 十の位の をおろす。
 - ・ $\div$ で十の位に 3 をたてる。
 - ・ 4 に をかけて 12。
 - ・ 13 から をひいて 。
- ③ 一の位の計算をしましょう。
- ・ 一の位の をおろす。
 - ・ $\div$ で一の位に 4 をたてる。
 - ・ 4 に をかけて 16。
 - ・ 17 から 16 をひいて 1。

[illegible]

◆ 3けた÷1けた=2けたの筆算

265 ÷ 5 の筆算のしかたを考えましょう。

百の位は、 $2 \div 5$ で
われないね。



26 ÷ 5 を計算して、
十の位から商を
たてればいいよ。

[illegible]

① $952 \div 7$

② $751 \div 3$

③ $918 \div 9$

④ $397 \div 3$

⑤ $365 \div 5$

⑥ $104 \div 8$

⑦ $210 \div 6$

⑧ $155 \div 7$

⑨ $635 \div 9$



◆折れ線グラフの見方

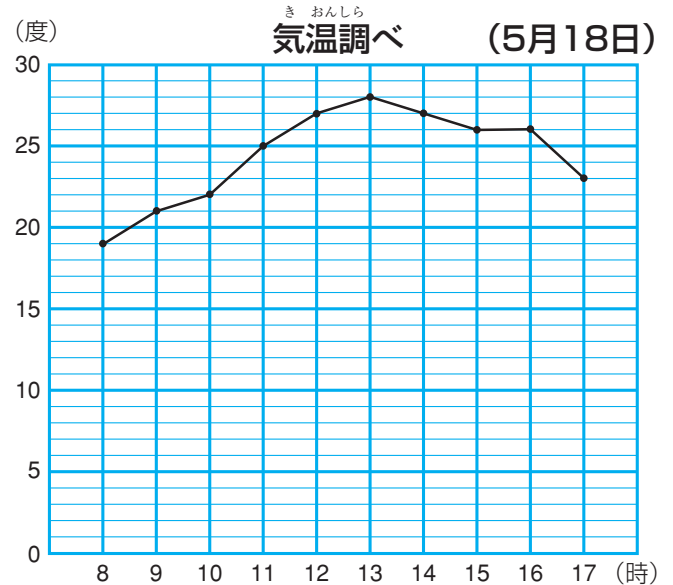
1 日の気温の変化を 1 時間ごとに調べて、次のようなグラフに表しました。
グラフを見て、 にあてはまる言葉や数を書きましょう。

- ① 気温のように、時間とともに変わって
いくものの様子を表すには、
 を使います。

1 時間ごとの気温を点で
表して、直線で結んだ
グラフだよ。



気温が変わって
いく様子が、
ひと目でわかるね。



- ② 横のじくは を、たてのじくは を表しています。

- ③ たてのじくの 1 めもりは、 度を表しています。

- ④ 11 時の気温は、 度です。

また、いちばん気温が高かった時こくは で、28 度です。

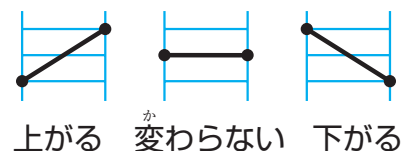
- ⑤ 気温が上がったのは、 から
 までの間です。

- ⑥ 気温の上がり方がいちばん大きかったのは、
 から までの間です。

- ⑦ 気温が変わらなかったのは、
から までの間です。

- ⑧ 気温の下がり方がいちばん大きかったのは、
 から までの間です。

変わり方は、線のかたむきで
わかるよ。



かたむきが急なほど、
変わり方が大きいね。



4 年	名	
	組	前



◆折れ線グラフのかき方

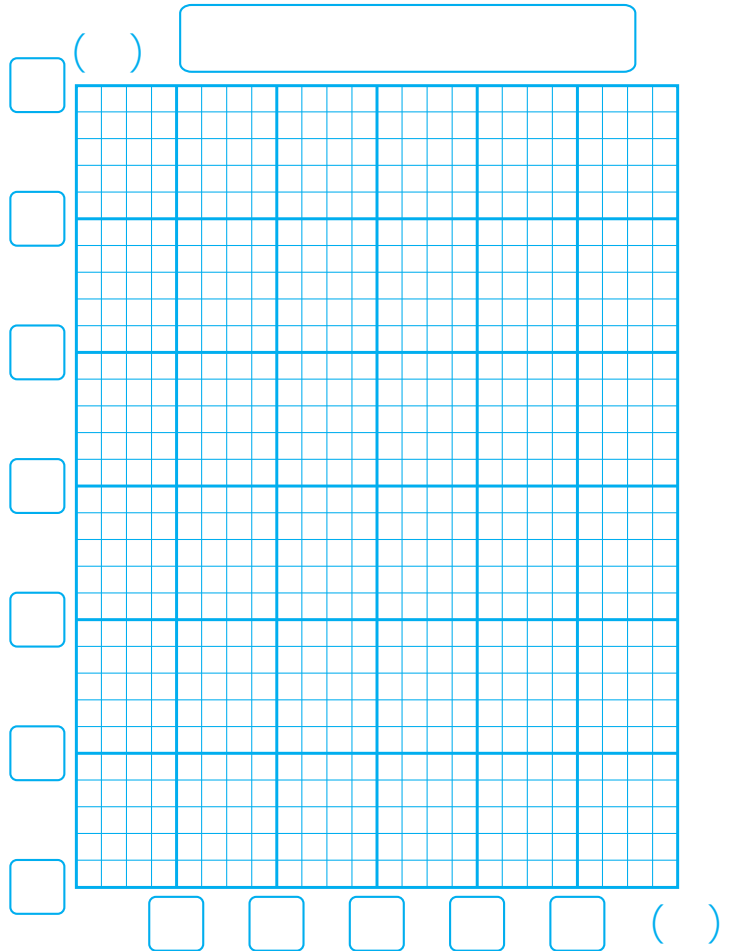
下の表は、5月20日の気温を2時間ごとに調べたものです。これを、折れ線グラフに表しましょう。

気温調べ (5月20日)					
時こく (時)	9	11	13	15	17
気温 (度)	21	23	27	25	20

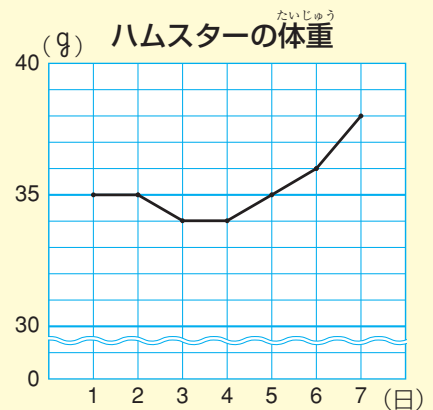
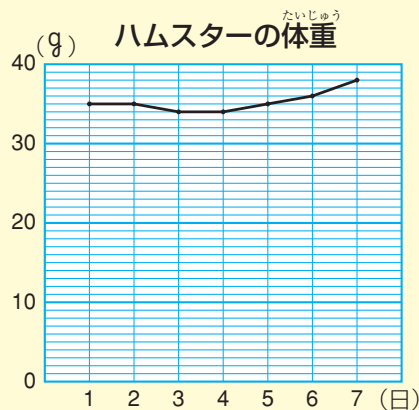
折れ線グラフのかき方

- ① 横じくには時こくを、たてじくには気温をとり、めもりをつけます。
- ② それぞれの時こくの気温を表す点をかき、その点を順に結びます。
- ③ 表題を書きます。

() の中に、たてじくと横じくの単位を書くのをわすれないようにしましょう。



折れ線グラフでは、変化の様子を見やすくするために、~~~~~ を使ってとちゅうのめもりを省くことができます。

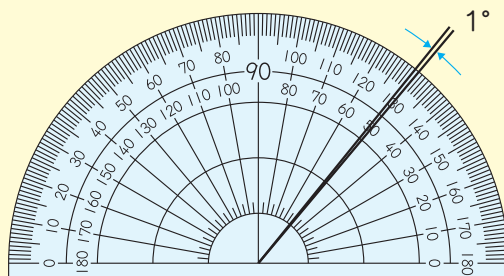




◆角の大きさの表し方

角の大きさの表し方を調べましょう。

- ① 直角を 等分した 1 こ分を 1 度と
いい、 と書きます。
- ② 直角は 度です。
- ③ 角の大きさをはかるには、
を使います。



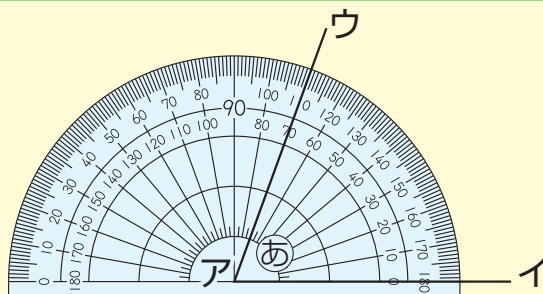
角の大きさのことを
かくど
角度ともいうよ。



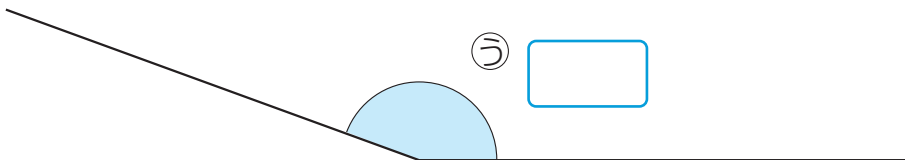
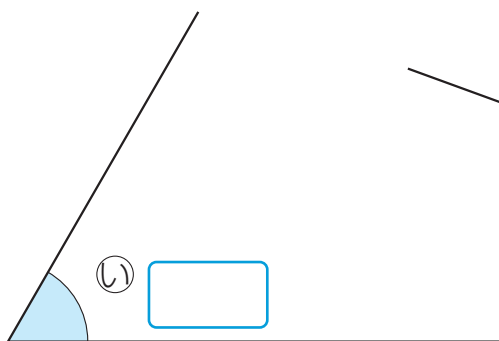
◆角度のはかり方

下の㊦ から ㊩ の角度をはかりましょう。

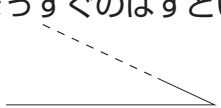
- ① 分度器の を頂点ア
に合わせる。
- ② 0° の線を辺 に重ねる。
- ③ 辺アウと重なっているめもりを
よむと、㊦ の角度は です。



直角 (90°) より小さい
ときは 70°、大きい
ときは 110° とよむよ。



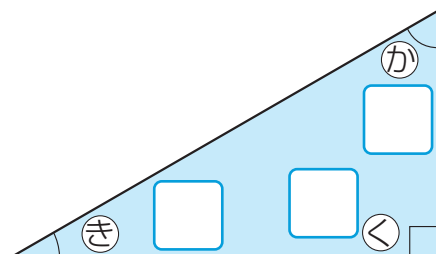
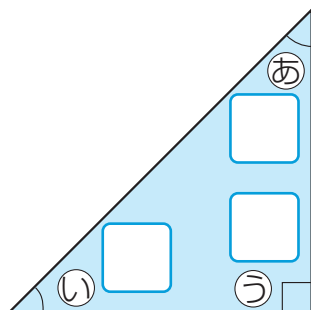
㊩ のように辺が短いときは、
辺をまっすぐのばすといいよ。





◆三角定規の角の大きさ

三角定規の角の大きさを調べましょう。



① 上のあからう、かからくの角度をはかりましょう。



うとくは直角だね。



あといの角の大きさは同じだね。



かはきの2倍の大きさだよ。

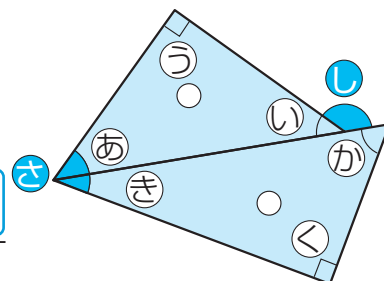
② さの角度を求めましょう。



あときをたした大きさだから…。

$$45 + \boxed{} = \boxed{}$$

答え $\boxed{}$



③ し of 角度を求めましょう。



半回転の角度は 180° だから…。



$$180 - \boxed{} = \boxed{}$$

答え $\boxed{}$

角度もたし算やひき算ができるね。



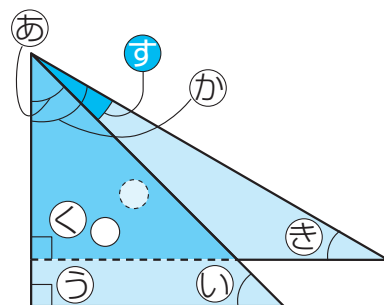
④ す of 角度を求めましょう。



かからあをひいた大きさだから…。

$$\boxed{} - \boxed{} = \boxed{}$$

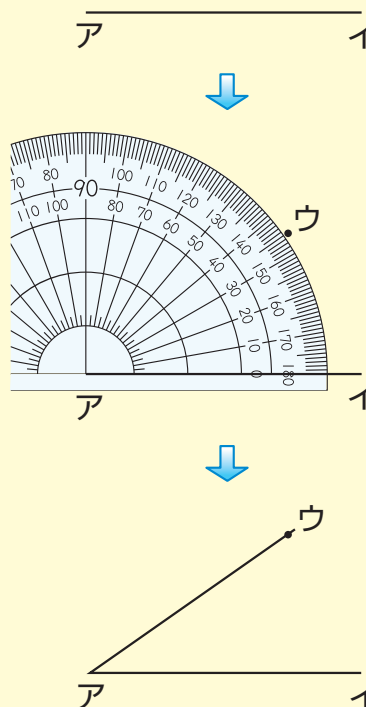
答え $\boxed{}$



◆角のかき方

35° の角のかき方

- ① 辺アイをかく。
- ② 分度器の中心を点 に合わせて、
0° の線を辺 に重ねる。
- ③ 35° を表すめもりのところに、点ウをうつ。
- ④ 点 と点 を通る直線をかく。



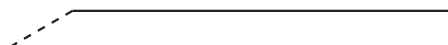
分度器を使って、いろいろな大きさの角をかきましょう。

① 80° の角

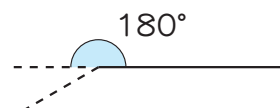
② 145° の角



③ 210° の角



210° は、180° と
あと何度かな。

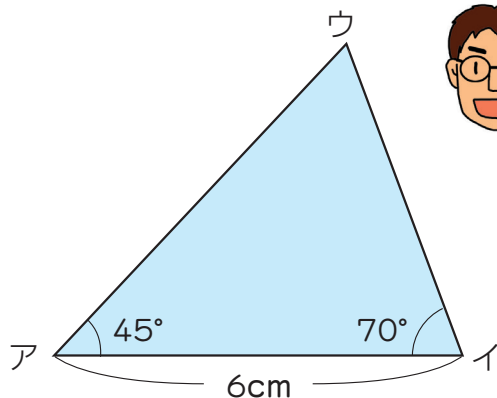




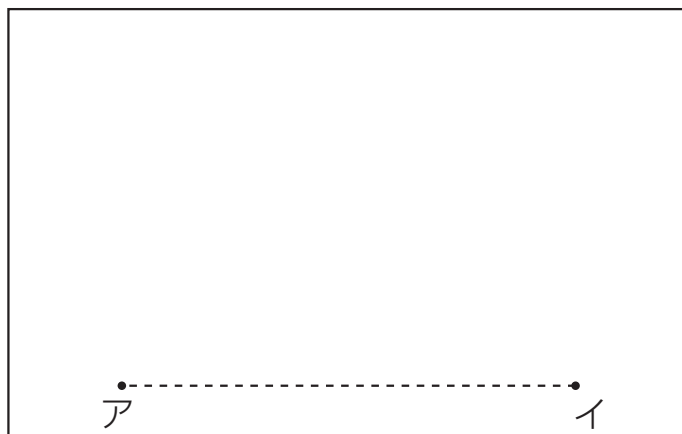
つぎ
次のような三角形をかきましょう。

じょうぎ ふんどき つか
三角定規と分度器を使ってかこう。

①



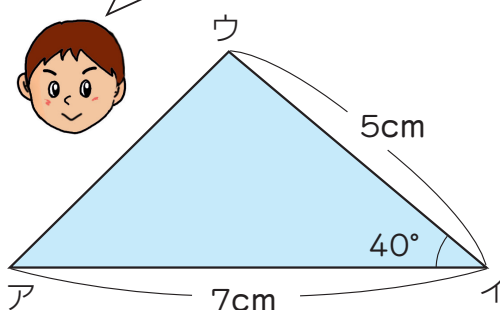
① 6cm の辺アイをかいてみよう。



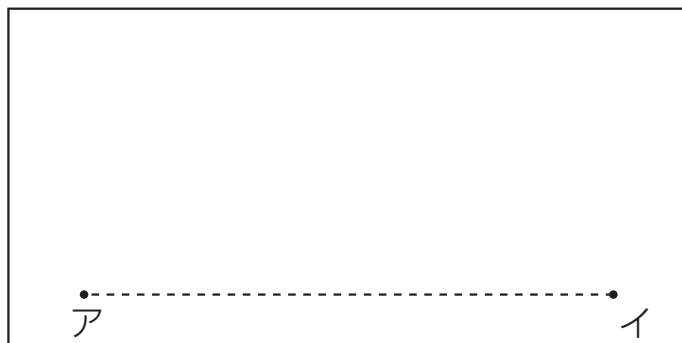
② 点アを中心にして、45° の角をかこう。

まず、7cm の辺アイをかいて…。

②



③ 点イを中心にして 70° の角をかいたら、交わった点を点ウとする。

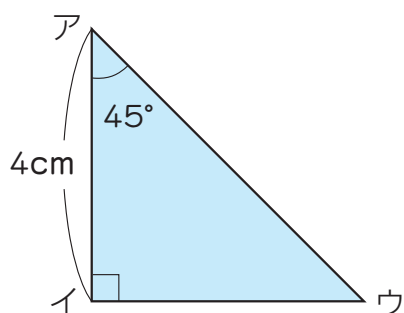


つぎ
次に、点イを中心にして 40° の角をかいて…。

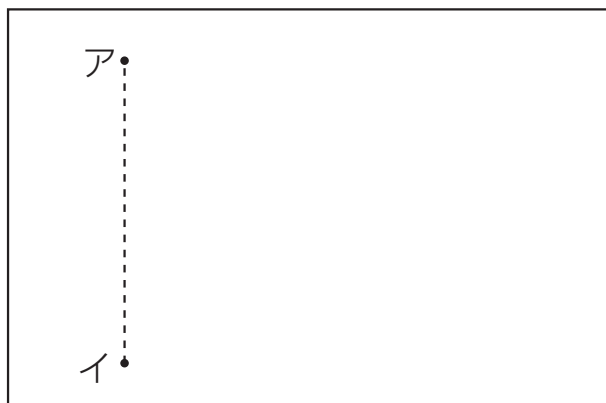


つぎ
次に、5cm の辺をはかったら…。

③



は 90° だね。

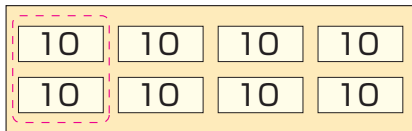




◆何十でわるわり算

80 ÷ 20 の計算のしかたを考えましょう。

① 図を見て、計算のしかたを考えましょう。



20 ずつ^{かこ}囲んで
いくと…。

$$80 \div 20 = \boxed{}$$

② 80 ÷ 20 は、10 をもとにすると、 $\boxed{} \div \boxed{}$ とみることができます。

80 ÷ 20 の商は、 $\boxed{} \div \boxed{}$ の商と等しくなります。



140 ÷ 40 の計算のしかたを考えましょう。

① 10 をもとにして考えると、

$$14 \div 4 = \boxed{} \text{ あまり } \boxed{} \text{ だから、}$$

$$140 \div 40 = \boxed{} \text{ あまり } \boxed{}$$

10 をもとにした計算で
2 あまったのだから、
あまりは 2 ではないね。

② 答えのたしかめをしましょう。

$$\boxed{} \times \boxed{} + \boxed{} = \boxed{}$$

わる数 × ^{しょう}商 + あまり = わられる数





◆ 2 けた ÷ 2 けたの計算

折り紙が 68 まいあります。1 人に 21 まいずつ配ると、何人に分けられて、何まいあまるでしょうか。

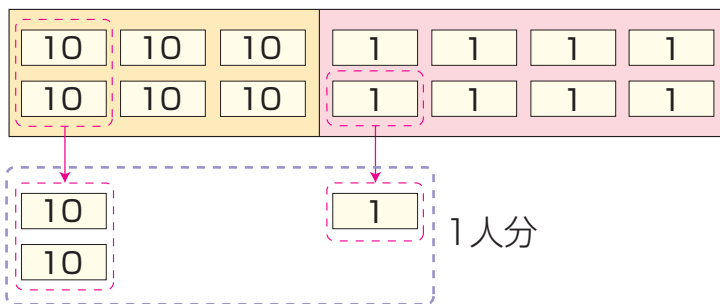
① どんな式で求められるでしょうか。

しき式



68 の中に 21 がいくつあるかを考えるのだから…。

② 図を見て、計算のしかたを考えましょう。

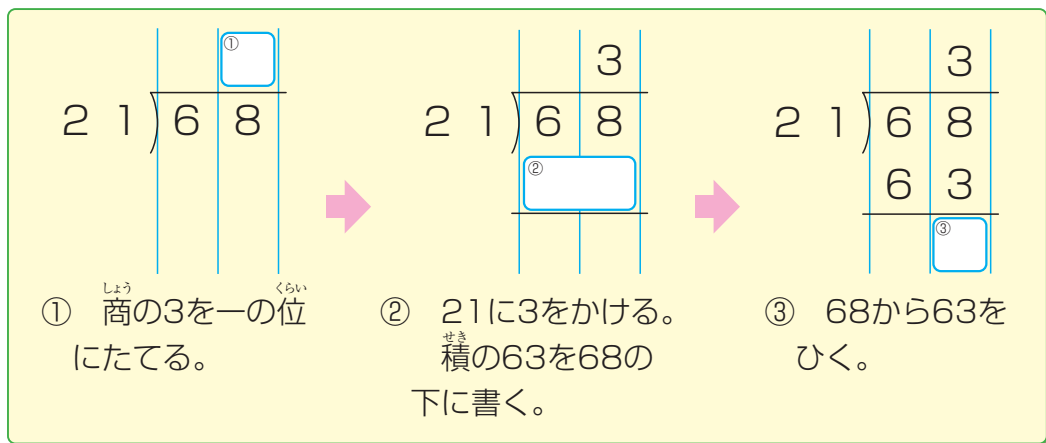


10 1 がいくつあるかな。



答え 人に分けられて、 まいあまる。

③ $68 \div 21$ の筆算は、次のようにします。



わる数の21 を 20 とみて、68 の中に 20 がいくつあるかを考えると、かんたんに商の見当がつけられるよ。

④ 答えのたしかめをしましょう。

$$\boxed{} \times \boxed{} + \boxed{} = \boxed{}$$

わる数 × 商 + あまり = わられる数



◆商の見つけ方

しょう 商 にどんな数がたつか見当をつける方法を考えましょう。

①

$$\begin{array}{r} 42 \overline{) 85} \end{array}$$

わる数の 42 を 40 とみると、
85 の中に 40 が こ入るので
しょう 商 には をたてます。

②

$$\begin{array}{r} 32 \overline{) 95} \end{array}$$

見当をつけたしょう 商 が大きすぎたときは、
しょう 商 を順に小さくして、正しいしょう 商 を見つけます。

・わる数の 32 を 30 とみて見当をつけると…。

$$\begin{array}{r} 3 \longrightarrow 2 \\ 32 \overline{) 95} \quad 32 \overline{) 95} \\ \underline{96} \quad \underline{64} \\ \text{ひけない。} \quad \text{ひける。} \end{array}$$

・わる数の 14 を 10 とみて見当をつけると…。

$$\begin{array}{r} 7 \longrightarrow 6 \longrightarrow 5 \\ 14 \overline{) 72} \quad 14 \overline{) 72} \quad 14 \overline{) 72} \\ \underline{98} \quad \underline{84} \quad \underline{70} \\ \text{ひけない。} \quad \text{ひけない。} \quad \text{ひける。} \end{array}$$

③

$$\begin{array}{r} 14 \overline{) 72} \end{array}$$

④

$$\begin{array}{r} 18 \overline{) 75} \end{array}$$

わる数を大きめにみてしょう 商 の見当をつけて、順に
大きくしてしょう 商 を見つけるほうがかんたんな場合
もあります。

・わる数の 18 を 20 とみて見当をつけると…。

$$\begin{array}{r} 3 \longrightarrow 4 \\ 18 \overline{) 75} \quad 18 \overline{) 75} \\ \underline{54} \quad \underline{72} \\ \underline{21} \quad \underline{3} \\ \text{わる数の18より大きい。} \quad \text{わる数の18より小さい。} \end{array}$$

・わる数の 18 を 10 とみて見当をつけると…。

$$\begin{array}{r} 7 \longrightarrow 6 \longrightarrow 5 \longrightarrow 4 \\ 18 \overline{) 75} \quad 18 \overline{) 75} \\ \underline{126} \quad \underline{72} \\ \text{ひけない。} \quad \text{ひける。} \end{array}$$

2けたの数のわり算 ④

(教科書 77～83 ページ)

4年

名

組 前

◆練習

① $71 \div 23$

2	3	)	7	1

② $85 \div 12$

		)		

③ $65 \div 34$

		)		

④ $95 \div 13$

		)		

⑤ $68 \div 28$

		)		

⑥ $82 \div 16$

		)		

⑦ $176 \div 34$

		)			

⑧ $308 \div 53$

		)			

⑨ $135 \div 17$

		)			

⑩ $549 \div 26$

		)			

⑪ $786 \div 64$

		)			

⑫ $632 \div 17$

		)			



◆わり算のきまり

12 ÷ 4 と、^{しょう}^{ひと}商が等しいわり算を見つけましょう。

$$\begin{array}{c} 12 \div 4 = 3 \\ \downarrow \div 2 \quad \downarrow \div 2 \\ \boxed{} \div \boxed{} = 3 \end{array}$$

$$\begin{array}{c} 12 \div 4 = 3 \\ \downarrow \times 2 \quad \downarrow \times 2 \\ \boxed{} \div \boxed{} = 3 \end{array}$$

わり算では、わられる数とわる数に同じ数をかけても、同じ数でわっても、

は変わりません。



^{しき}式の数が変わると、答えはどのように変わるか調べましょう。

かけ算

$$20 \times 3 = 60$$

$$20 \times 3 = 60$$

↓ × 10

↓ ×

$$20 \times 30 = \boxed{}$$

$$20 \times 3 = 60$$

↓ × 10

↓ × 10

↓ ×

$$200 \times 30 = \boxed{}$$

わり算

$$60 \div 3 = 20$$

$$60 \div 3 = 20$$

↓ × 10

↓ ÷

$$60 \div 30 = \boxed{}$$

$$60 \div 3 = 20$$

↓ × 10

↓ × 10

↓

$$600 \div 30 = \boxed{}$$



◆わり算のきまりを使った計算

4200 ÷ 600 を、わり算のきまり^{つか}を使ってくふうして計算しましょう。

$$4200 \div 600 = 7$$

$$\begin{array}{r} \downarrow \div \square \quad \downarrow \div \square \\ 42 \div 6 = 7 \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 7 \\ 600 \overline{) 4200} \\ \underline{42} \\ 0 \end{array}$$



100 をもとにしたわり算
と同じ考え方だね。

それぞれ 100 でわるから、
0 を 2 こずつ^け消して…。



4200 ÷ 600 のようなわり算では、わられる数とわる数の を同じ数だけ^け消して計算することができます。



4500 ÷ 800 を、わり算のきまり^{つか}を使ってくふうして計算しましょう。

$$\begin{array}{r} 5 \\ 800 \overline{) 4500} \\ \underline{40} \\ 5 \end{array}$$



あまりは 0 を消した分だけ
0 をつけたせばいいね。

$$4500 \div 800 = \square \text{ あまり } \square$$



北山町の人口は 23687 人、西川町の人口は 28564 人です。
それぞれの人口を、^{やく}約何万人と^{あらわ}表す方法を考えましょう。

- ① 北山町と西川町の人口は、20000 人と 30000 人のどちらに近い、下の数直線を見て考えましょう。

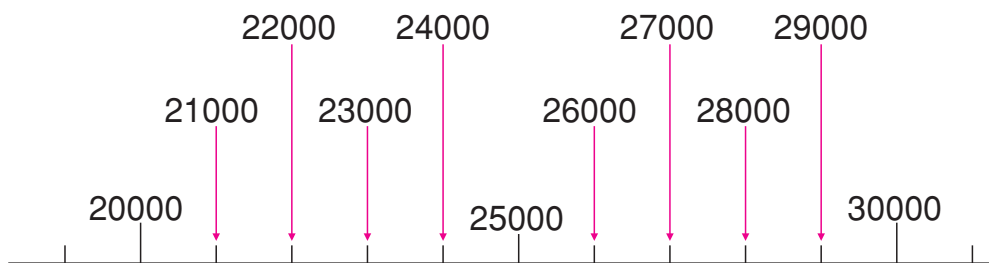


北山町 23687 人は、 人に近い。
西川町 28564 人は、 人に近い。

2 万と 3 万のまん中は
25000 だね。



- ② 北山町の人口は約 万人、西川町の人口は、約 万人です。
③ 2 万と 3 万のどちらに近いかは、何の位^{くらい}の数字を見ればわかるでしょうか。



一の位、十の位、百の位の数字に関係なく、
 の位の数字だけ見れば、2 万と 3 万の
どちらに近いかがわかります。

2 万と 3 万の間にある数^{やく}を約何万と^{あらわ}表すには、

の位^{くらい}の数字が、

、、、、 のとき、約 20000

、、、、 のとき、約 30000 とします。

このようにしてがい数で表す方法^{あらわ}を、 ^{ほうほう}といいます。

◆四捨五入のしかた

① 次の数を四捨五入して、一万の位までのがい数で表しましょう。

2 6 8 4 6 5 →

一万の位

千の位を
四捨五入
する。

5 3 9 1 2 →

7 4 6 3 0 0 →

表したい位の1つ下の
数字を見ればいから…。



千の位の数字は6だよ。



② 次の数を四捨五入して、千の位までのがい数で表しましょう。

4 2 5 3 2 →

千の位

百の位を
四捨五入
する。

1 9 8 4 6 3 →

千の位までのがい数に
するには、百の位の
数字を見ればいね。



百の位の数字は
4だから…。



③ 次の数を四捨五入して、上から2けたのがい数で表しましょう。

6 8 7 2 6 5 →

上から
2けた

上から3けためを
四捨五入する。

3 4 4 8 7 5 →

上から3けための数字を
見ればいから…。



上から3けための
数字は4だね。



がい数 ③

(教科書 99 ~ 100、102 ~ 103 ページ)

4 年	名	
	組	前

あらか
がい数で表すしかたを
思い出してみよう。



ししや ごにゆう あらか
四捨五入してがい数で表すに
は、百の位までのがい数にする
ときは十の位を、千の位のまで
のがい数にするときは百の位を
ししや ごにゆう
四捨五入すればいいね。

10925 (百の位まで) → 10900

10925 (千の位まで) → 11000

10925 (一万の位まで) → 10000



西町の人口は12943人で、東町の人口は26174人です。2つの町の人口の合計は約何千人でしょうか。

① それぞれの町の人口を、四捨五入して千の位までのがい数で表しましょう。

西町 12943 人 ⇒ 人

東町 26174 人 ⇒ 人



ししや ごにゆう くらい
四捨五入して千の位まで
のがい数にするには、何の
位を四捨五入すればいい
のかな。

② あわせて約何千人でしょうか。

+ =

答え 約



がい数にしてから計算する
ことを、がい算というよ。



右のような買い物をする、約何百円になるか
調べましょう。

ボールペン	190円
ノート	220円
筆入れ	450円

① 四捨五入して求めましょう。

答え 約

② 切り上げて求めましょう。

答え 約

③ 切り捨てて求めましょう。

答え 約

切り上げるときは、
十の位がどんな数でも
百の位にくり上げるよ。



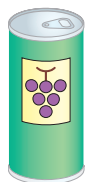
切り捨てるときは、
十の位がどんな数でも
百の位にくり上げないよ。



◆積や商の見積もり

52人に同じ種類の飲み物を1本ずつ買うときの合計を、がい数で求める方法を考えましょう。

㊐



75 円

㊑



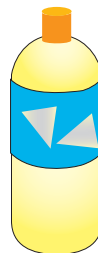
98 円

㊒



118 円

㊓



147 円

- ① ㊑の飲み物を買う場合の代金の合計を、98 円を 100 円、52 人を 50 人とみて見積もりましょう。

$$100 \times 50 \rightarrow \text{約 } \boxed{} \text{ 円}$$

- ② 52 人分の代金の合計が約 6000 円になるのは、㊐、㊒、㊓のどの飲み物を買うときでしょうか。㊐、㊒、㊓の飲み物の代金を、四捨五入して十の位までのがい数で表し、52 人を 50 人とみて見積もりましょう。

かけ算で考えると…。

㊐	$\boxed{} \times 50$	$\rightarrow$	約 $\boxed{}$ 円
㊒	$\boxed{} \times 50$	$\rightarrow$	約 $\boxed{}$ 円
㊓	$\boxed{} \times 50$	$\rightarrow$	約 $\boxed{}$ 円

わり算で考えると…。

$$6000 \div 50 \rightarrow \text{約 } \boxed{} \text{ 円}$$

答え $\boxed{}$ の飲み物